

別記様式（第3条関係）

会 議 録（1）

会議の名称		令和6年度 第1回桶川市いじめ対策委員会
開催日時		令和6年8月16日（金） （開会）午後1時30分・（閉会）午後2時50分
開催場所		桶川市役所 401
主宰者の氏名		
議長の氏名		
出席者氏名 （委員）		4名
欠席者氏名 （委員）		1名
説明員氏名		
事務局職員 職名及び氏名		4名
会議事項	議 題	
	開会	
	1 あいさつ	
	2 協議等	
	（1）桶川市等のいじめに係る現状 （2）第1回学校の生活アンケートの実施について （3）児童生徒主体のいじめ防止取組について	
議 事 項	3 次回以降の予定について	
	閉会	
議 事 項	決定事項等	
配布資料	次第・名簿、いじめ対策委員会規則 桶川市等のいじめに係る現状 第1回学校の生活アンケートの実施について 児童生徒主体のいじめ防止取組報告集	

会 議 録 (2)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
	開会 1 あいさつ（省略） 2 協議等
委員長	（１）桶川市等のいじめに係る現状について事務局より説明をお願いする。
事務局	資料に基づいた説明（省略）
委 員	いじめの認知の仕方を確認したい。
事務局	学校の生活アンケートに記載があるというのがいじめの発見につながりやすい。当事者に聴き取りをし、事実が確認された際、学校組織で認知したものが認知となる。
委 員	出発点はアンケートに書かれているということか。
事務局	アンケートで発見される場合が多いが、日常の生活内で見つかる場合や、直接本人や保護者から訴えがある場合もある。
委 員	認知件数には、アンケートとアンケート以外のものが含まれているということか。
事務局	全部含まれている。
委 員	誰が一番初めに気付いたのかという窓口がわかるとよい。アンケートは書きやすいがタイムリーではない。思った時にすぐに訴えられるのがよい。子どもが気軽に言えるようになるとよい。子どもの発言力を高めたい。
事務局	教員の発見力も大切である。
委 員	大学生でも個人面談をすると、悩みを打ち明けてくれることがある。教員が複数で共有して対応できる。
事務局	担任が一人で抱えてしまうということはなくなってきた。小中学校でも組織的な対応ができている。
委 員	パソコン等での誹謗中傷は０件となっている。
委員長	誹謗中傷については今回、パリオリンピックでも話題になった。悪口の中に分類されているのではないか。
委 員	解決の状況についてはどうか。
事務局	割合としては、昨年とほぼ変わっていない。さらに３か月後に追跡で調査をするが、昨年度は、ほぼ１００％に近い解消率となっていた。
委 員	中学校の認知件数はあまり変化がない。先生の意識はどうか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	小学校と比較すると、中学校では、アンケートに書かれる枚数が少ない。日常生活の中で教員が見つけようとしないうとなかなか見えてこない部分がある。
委 員	小学校と中学校では先生の対応も異なるのではないか。
事務局	小学校では担任が基本的に1日中教室にいるというのが利点ではあると思うが、小学校でも教科担任制が取り入れられてきている。
委 員	教科担任制であったとしても、要注意な子どもがいるときには、みんなでよく見ていくことが必要だ。中学生の社会性が落ちてきている。中学校の教員も小学生を相手にしているような気持ちで見ていくことが必要であると思う。
委員長	(2) 第1回学校の生活アンケートの実施について事務局より説明をお願いします。
事務局	資料に基づいた説明(省略)
委 員	S N Sの使い方についてはやはり指導が必要である。
事務局	道徳で誹謗中傷に関する題材の授業を行った学校もある。
委員長	自分の思いを言っただけだ、誹謗中傷ではない、という感覚なのではないか。単なる悪口であるという感覚は大人にもある。
委 員	誹謗中傷自体、子どもにとっては捉えが難しいのではないか。
委 員	過度な非難というところか。
委 員	思いをその場で分かち合えれば済む話が、分かち合う誰かがいないから投稿するのではないか。
委 員	ネット上で顔は見えない。エスカレートしがちである。
委員長	(3) 児童生徒主体のいじめ防止取組について事務局より説明をお願いします。
事務局	資料に基づいた説明(省略)
委員長	子どもが自主的に取り組むというのはよい。
事務局	教員側からの指導だけではなく、子ども達自身がいじめはいけないことであると気づけるように促す取組である。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委 員	公開はしているのか。
事務局	全校集会のような形で行っている学校が多い。保護者等に向けての公開はしていなかった。
委 員	保護者や地域の方にも公開してもよいのではないか。
委 員	集団で生活しているとトラブルは起こるものである。トラブルが起こった時に、どのように解決していくのかというスキルを習得する機会が減っている。解決の仕方を知らない子どもが増えている。解決をする経験をしたうえで大人になっていくことが大切である。未然防止も大切だが、起こった時にどう解決していくかを考えさせたい。
委 員	いじめやトラブルが起こったところをスタート地点として、どう解決していくのかを考えさせたい。
委員長	逃げるのも解決方法の一つである。決まった方法を教えるのではなく、いろいろな解決方法を考えさせることが大切ではないか。
委 員	この夏に、芸能界でもSNSに関するトラブルが起こった。子ども達に考えさせる良いきっかけともなるのではないか。
委 員	バランス感覚を養うことが大切である。社会に出たときに対応できるような力をつけてあげたい。
委 員	起きたときにどうするのかを学ぶことも必要である。昔は子ども同士の喧嘩に親は口を出さなかった。今は違う。子どもたちがどう解決していくのかを考えさせることが必要だ。
委 員	正解のない問題を考える。先生たちだってわからないことがあって良い。一緒に考えていく姿勢が必要。
委 員	一緒に考えることに価値があるのではないか。
委 員	ふわふわ言葉とチクチク言葉はわかりやすい。リフレーミングも有効である。
事務局	リフレーミングを掲示してある学校もある。
委 員	建前と本音が乖離しすぎるのもよくない。きれいごとにとらわれすぎないようにしたい。
委 員	学年が上がるにつれて、使い分けるようになってしまう。その場で求められている役割を演じるようになってしまいうとよくないのではないか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委 員	自分には悪い感情もあるということを否定させない。
委 員	どんな人がいたら嫌なのかという感情も無視させたくない。嫌いな人と向き合った時にどうするか。相手を尊重しなければならないけれど、受け入れられない。受け入れられないから攻撃したくなる時もある。
委 員	大人でも難しい。子どもの方がうまくできる場合もあるかもしれない。
委 員	小学校では相手が謝ってくれたというのが多いが、中学校では担任が指導したという解決方法が多くなっている。
委員長	起こった時にどうするかという視点で子ども達に考えさせるのは、実践してみてもよいのではないか。児童生徒主体の取組は継続していただきたい。
	(4) その他
委 員	学校の生活アンケートの取り方は変えてもよいのではないか。タブレットを活用した方法もできるのではないか。
事務局	タブレットでアンケートを取っている学校もある。
委 員	さいたま市での事例のようにタイムリーに把握できる方法も模索してほしい。アンケートに書けない子ども達の気持ちを拾えるようにしたい。
委 員	例えば毎日○、△、×を入力させる。×が付いた子どもは先生が気持ちを確認する、△が続いたら話を聞くなど、負担の少ない形で考えられるとよい。
事務局	検討する。
	3 次回以降の予定について(省略)
	閉会